

4-4 神津島—新島近海の地震活動（1991年5月～6月）

Seismic Activity in and near the Kozushima-Niijima Island (May—June, 1991)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

神津島近海で1991年5月に、新島近海では翌6月に地震活動が一時活発化した。活動はいずれも短期間で終息した。

神津島近海；1991年5月27日～31日（第1図）。

27日09時40分頃から活発化したが、活動が比較的活発だったのは同日19時頃までで、その後は低いレベルでの活動が31日まで続き一段落した。この期間、42個の地震が震源決定（深さは15km以浅）された。最大地震は27日10時14分のM4.9（深さは0.2km）、この最大震度は3（三宅島）であった。有感地震はこれ1個のみである。

新島近海；1991年6月20日～23日（第2図）。

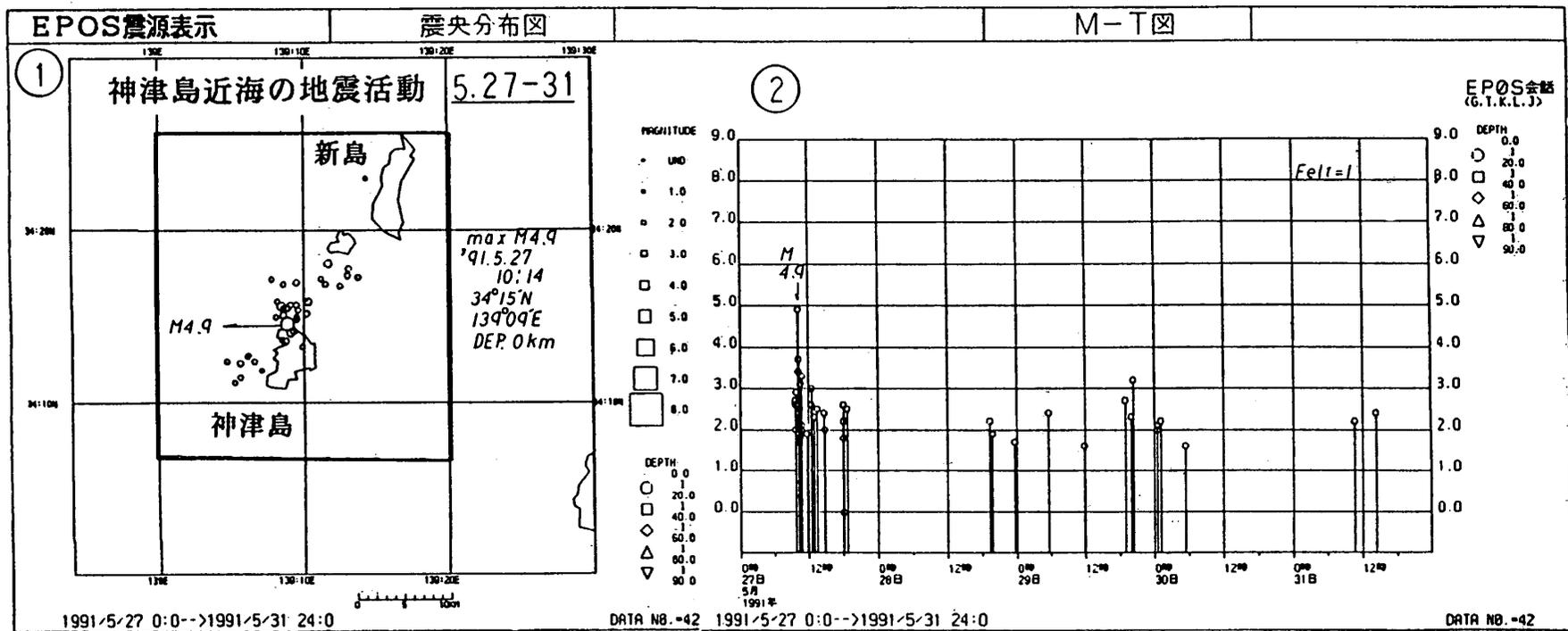
活動が活発化したのは、20日17時50分頃からで、活動のレベルは神津島近海の場合と比べかなり低く、地震の発生の仕方も散発的であった。活動は23日午後にはほぼ終息した。この期間の震源決定地震数は18個（深さ13km以浅）、最大地震はM3.3（22日15時04分・深さ7km）。有感となった地震はない。

最近の神津島—新島近海の活動状況；1988年7月1日～1991年6月30日（第3図）。

この海域における最近3年間の活動は、きわめて興味深いパターンを示した。1988年7月以降これまでに、今回を含め4回の群発地震が発生しているが、これらの活動域が次第に北上して来ていることである。今後の活動の推移が注目される。

なお、1988年12月～1989年1月と1991年4月の活動については、会報第42巻・第46巻の「神津島近海の地震活動」を参照。これには、やや広域的に見た場合の1926年以降の活動状況等も示されている。

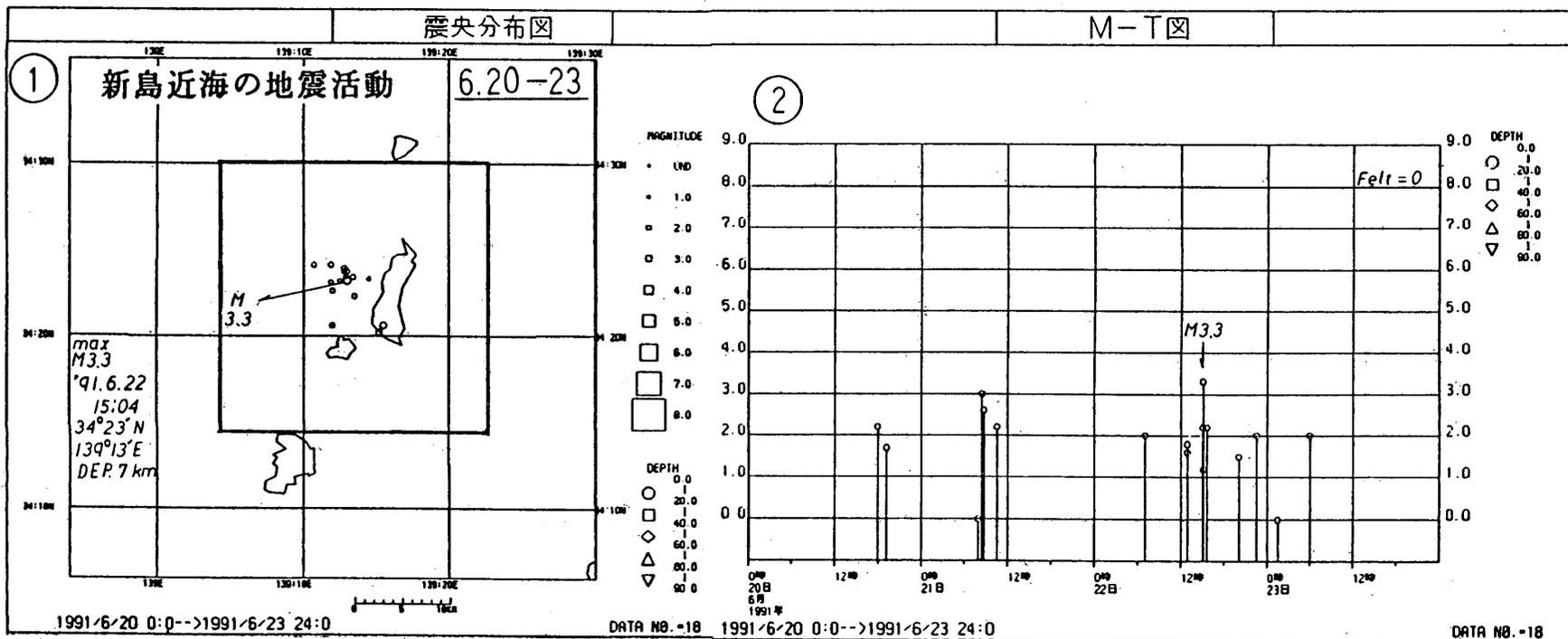
注：1991年6月1日からの資料は暫定。なお、震源決定等には、気象庁のほか東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用。新島近海の最大地震の再計算結果（最終値）による震源要素は、22日15時04分33.8秒，34° 23.2' N・139° 13.0' E，M3.3，深さ6.9km。



第1図 神津島近海の地震活動（1991年5月27日～31日）

①：震央分布，②：M-T図

Fig. 1 Seismic activity in and near the Kozushima Island (May 27 - 31, 1991).
①: Epicentral distribution, ②: M-T diagram.



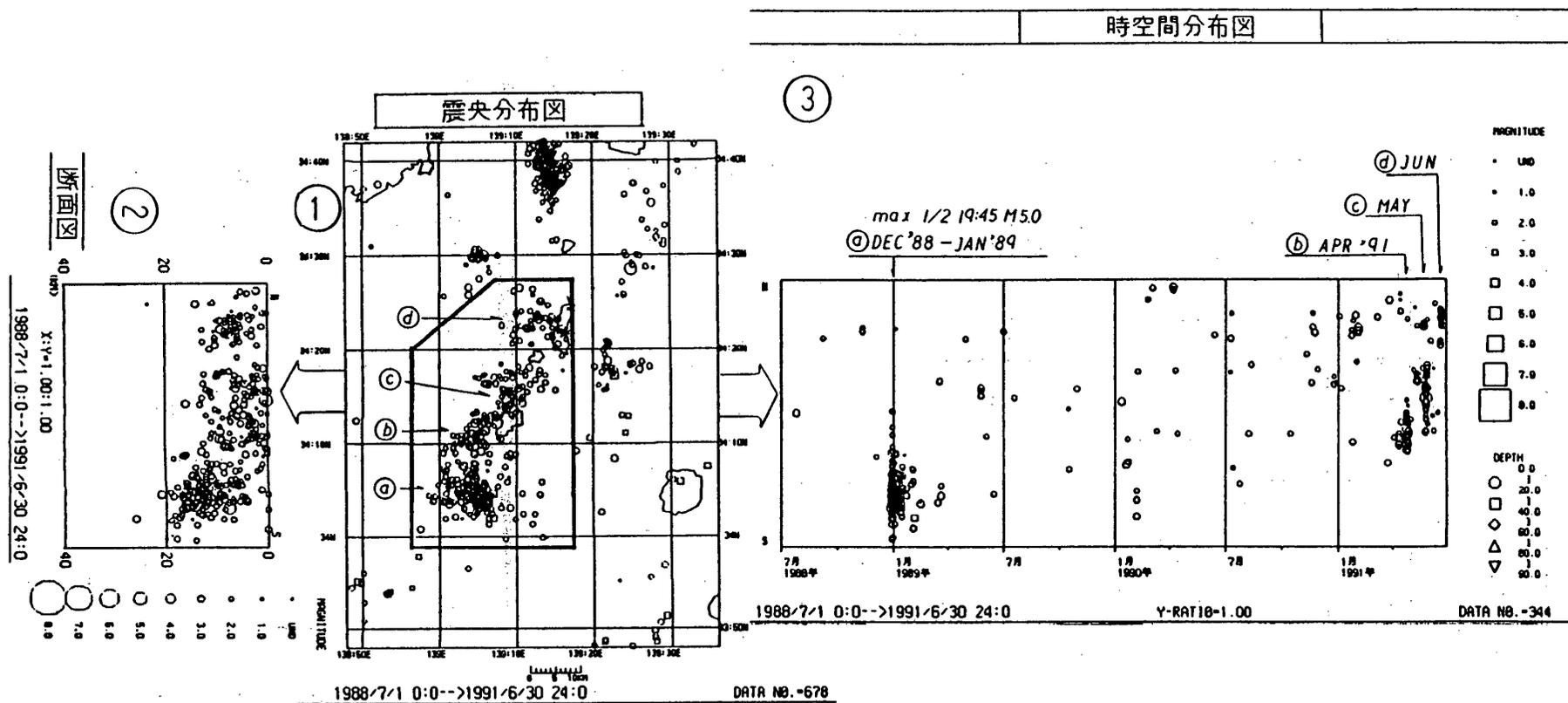
第2図 新島近海の地震活動(1991年6月20日~23日)

①: 震央分布, ②: M-T図

Fig. 2 Seismic activity in and near the Nijima Island (Jun. 20 - 23, 1991).

①: Epicentral distribution, ②: M-T diagram.

神津島—新島近海の地震活動



第3図 神津島—新島周辺海域の地震活動 (1988年7月1日～1991年6月30日)

①：震央分布, ②：断面図 (北—南), ③：時空間分布

Fig. 3 Seismic activity in and around the Kozushima-Niijima Island (Jul. 1, 1988 – Jun. 30, 1991).

①: Epicentral distribution, ②: Vertical section of ① along the N-S direction, ③: Space-time plot.